

オーガニック米「みずかがみ」の 栽培技術の確立による安定生産

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

対象は、令和2年度から「みずかがみ」のオーガニック栽培を1筆(1.0ha)で開始されました。しかし、オーガニック栽培の知識が不十分であったこともあり、雑草の多発や斑点米カメムシ類の影響を大きく受け、初年度に500kg/10a 近くあった収量は年々減少していました。そこで、令和5年度より当センターが支援に入り、栽培に係る計画の見直し等を行ったものの、機械のトラブルや土壌均平の不足により雑草が繁茂し、目標収量を下回る結果となりました。

今年度は、引き続きオーガニック栽培の技術習得と、昨年度の課題の克服を目指した支援を行いました。

【普及活動の内容】

ほ場準備、機械除草、水管理および斑点米カメムシ類対策としての畦畔雑草管理等のオーガニック栽培においてポイントとなる作業について、資料等で事前に説明を行い、作業目的の理解と実践を促しました。また機械除草については、ほ場の状況を対象と確認し、適切なタイミングで除草が実施できるように助言をしました。



写真1 機械除草作業の様子

【普及活動の成果】

オーガニック栽培の基本技術やより効果的な機械除草を実施された結果、令和6年度のオーガニック米「みずかがみ」の収量は380kg/10aとなりました。過去2年間の収量を上回ることで、対象もオーガニック栽培技術の実践に手応えを感じられました。一方、品質については斑点米カメムシ類の発生が例年に比べて多く、被害を抑えきれず2等となりました。また、今年度課題となった田植え時の植え付け本数や機械除草時の水管理等の改善点を踏まえ、次年度の作業計画を対象と見直し、決定しました。

今後もオーガニック米「みずかがみ」が安定生産されるよう、引き続き支援していきます。

◎対象者の意見

効果的な除草作業の実施により、雑草を抑えることができた。次年度も安定的な収量が確保できるよう取り組みたい。(生産者 M 氏)